



一般社団法人
富山県作業療法士会
ニュース

平成28年度 No.1 第120号 平成28年6月22日

発行 富山県作業療法士会
会長 田村良子
印刷 (株) チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：580人

新たなステップへ

県士会 会長 田村良子



6月の総会前に4月20日新川地区からスタートし、砺波、富山、高岡地区の順に地区別会議

を開催しました。顔の見える距離で県士会活動の理解を図る目的です。各施設から1名の出席を依頼し、1. 県士会の動向、2. 生活行為向上マネジメント、3. 介護予防事業、4. 認知症初期集中支援、5. 災害対策、6. 会費値上げについて各担当理事より説明をしました。

県士会の動向では、一つは協会との組織体制について、協会と各都道府県作業療法士会とが締結をし、昨年度より47都道府県委員会（各士会長が委員）を立上げ、協同して重要課題の事業を進めて行くこととなりました。それに伴い都道府県連絡協議会を5月末の47委員会後に総会を開き、解散することになりました。今後は独自に東海北陸作業療法士会（仮称）を立上げこれまでの東海北陸作業療法学会やリーダー研修会等を運営していく予定です。二つ目は、PT、OT、ST三協会、三士会合同の活動体制です。昨年4月に、地域リハビリテーション活動に資する事業を実施していく目的で三士会合同で富山県リハビリテーション専門職協議会を立上げ、今年7月から市町村の介護予防事業を支援する体制を作りました。今後も様々な事業をこの協議会を通して行っていくことになり、行政や医師会等の連携を強固にすることや地区単位、市町村単位の活動が求められます。

今回の地区別会議の開催はその意味も込められ、地区別の連絡網を作ったのもそのためです。

生活行為向上マネジメントの研修については、昨年度士会あげて取り組んだ結果、基礎研修終了者は協会の目標とする士会員の60%に近い57%となり、福井県に次いで全国2位の達成率です。次の事例発表者30%に向けてまず1例実践してみましょ。う。「生活行為向上」という「これを作業療法！」を自分自身も味わってみましょ。そして周りの人達の支援の視点も変えて行ましょ。また、介護予防事業においても、認知症の支援においてもOTはこの視点で関わりますとパンフレットに明示しています。この実践は、作業療法士という職種の存続がかかっていることでもあると認識して下さい。先日の社会福祉関連団体の集りの中で、ある病院の事務長から、「やっと作業療法士の仕事がわかって来ました。もっと作業療法士を増やしたいが…」とのお話をいただきました。また、家の息子、娘が作業療法士を目指していますとのお話も聞きました。期待が向けられ、「良い仕事をしなくては…」と気持ちが引き締まる思いがしました。皆さんのご健闘をお願いします。

このような中で活動費用や組織の管理費が増えて行き、これまでの5,000円の会費では運営は難しくなってきました。会費の面でも新たな組織体制のステップアップに向けてご協力をお願いします。

富山県災害派遣精神医療チーム(DPAT)に参加して

富山県立中央病院 精神科 佐藤 厚視

4月16日午後、「熊本県よりDPATの派遣要請が入ったので、関係職員は今すぐ集合して下さい」と県厚生部から緊急に呼び出された。平成26年に富山県DPATが結成され、その時から派遣第1班は県立中央病院と決まっていた。今年の3月末に初めてのDPAT研修会が開催されたばかりで訓練する間もなく、3週間余りで突然の出動となった。

DPATとは東日本大震災を契機に各都道府県に設置された、災害派遣精神医療チームである。自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後、被災地域に入り精神医療及び精神保健活動の支援を行う。DPATチームは、医師・看護師・調整役の3名と専門職(OT、PHN、PSW、CP)から1名の計4名で構成される。以前、災害支援活動経験が豊富なPHNから「災害避難所にはOTが必要」と聞いていたので、今回の派遣要請に参加を志願した。

4月18日に富山空港から佐賀空港に向かうことになった。本来なら始発便でひっそりと出発する予定であったが、搭乗予定の飛行機の出発が3時間以上も遅れたため、マスコミの取材を受けることになってしまった。佐賀空港からDPAT拠点本部のある熊本赤十字病院までの約60kmを6時間も要して到着した。そして明日からの活動場所が決まった、震源地の益城町である。

最初に入ったのは益城町保健福祉センターであった(約200名の避難所であり、各避難所の拠点本部でもある)センターでは自衛隊による炊き出しや入浴施設の設置が始まっており水道や電気といったライフラインは回復していたが、トイレは

仮設のままだった。避難所で支援活動の主体となっている町職員の方々も被災者であり、被災者による被災者支援が徐々に始まりつつあった。避難所で医師と看護師は不安や不眠を訴える方々に対応し、その間に私は避難所担当のPHNから情報してもらい杖の調整や下肢の浮腫に対する運動指導を行った。また、余震が続くので不安を訴える方に不安緩和のタッチケアを行った。

避難所でOTの出来ることは福祉用具の作成・調整や運動指導だけでなく、出来ることがもっと多くあった様に思う。本来ならば一つの避難所で集中的に活動することが良いと考えるが、今回はまだ発災5日目で活動チーム数が少なく地域巡回活動となった。

皆さんが、OTとして被災地の支援活動に従事する機会は少ないと思う。しかし、自然災害等で職場が被災し自らも被災する可能性は十分にある。皆さんが勤務する施設の耐震性は如何でしょうか? 装備は? 訓練は??

富山に帰って職場復帰すると作業療法室のドアに「震災応援、頑張ってください」と書かれた、患者さんからのカードが何枚も貼り付けられていた。

50th JAPAN
日本作業療法士協会
設立50周年

「これからも あなたと共に 作業療法」

富山県士会におけるMTDLP推進状況報告

富山医療福祉専門学校 藤井 暁子

富山県士会員の皆さま、「MTDLP」の用語に慣れ親しんでいただけていますでしょうか。

富山県士会でも昨年度までのMTDLPの基礎研修修了者が311名となり、約57%にのぼりました。なんと基礎研修修了者数割合では全国2位の修了率（2016年4月現在）となります。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

MTDLPは、超高齢化、財源問題（少子化）、サービスの効果をより求める制度、自助・互助をベースとした制度開発、地域包括ケアシステムの確立にマッチする作業療法展開の必要性、といった背景から開発されました。加えて、行政から作業療法士への働き掛けもありました。昨年度3月6日に、厚生連高岡病院で開催された基礎研修でMTDLP推進委員プロジェクトリーダーの谷川先生をお招きした際、伺ったお話しをご紹介します。

MTDLP報告会オブザーバーの厚生労働省老人保健課の課長 迫井氏から「プロフェッショナルとしてのOTを示してほしい」「MTDLPのような取り組みをOTの仕事として示してほしい」と期

待され、しかし同時に「今現在OTに吹いている風（生活行為向上マネジメントの診療報酬化などの国からの支援）は長くは吹かないよ」と釘をさされているとのことでした。その他にも、リハビリの課題と作業療法士の役割として、確実に生活に資するリハビリへの転換が求められており、何のために機能を向上するのかを明確にする必要があるとおっしゃられました。今後はサービス担当者会議などで、作業療法士のプロとしての発言がもっと求められるでしょう。OTが国民の健康に資することができるのか、まさに今、試されています。

富山県士会では今年度、MTDLPの臨床での実施に向け、実践者研修に力を入れ企画しています。MTDLPの基本的な考え方の確認などを中心に、気負わないけれどもまじめに作業療法を考える研修会を目指しています。OTの次の50年を開くために、新人さんもベテランさんも皆で作業を語り合いましょう！

南砺市MTDLP事例報告会のお知らせ

○目的：一人でも多くの作業療法士が事例報告を行い、MTDLPを共通のツールとして用いることができる。

また、同時に、地域の課題を作業療法士の観点から集約し、地域全体のスキルアップを図る。

○参加者：①南砺市内の作業療法士

②南砺市以外の作業療法士で本事業に参加を希望される方（要事前連絡）

助言者として、南砺市政策参与、地域包括医療ケア局 地域包括課顧問 南真司先生

○日時：奇数月の水曜日 19時より

第1回5月25日・第2回7月27日・第3回9月28日

第4回11月30日・第5回1月25日・第6回3月22日

○場所：南砺市民病院 リハビリテーション室

○準備していただくものは、県士会ホームページをご覧ください。

○問い合わせ・申し込み 南砺市民病院地域リハビリテーション科 高橋 佳孝

E-mail：ikkinomi_saiko_dayo@yahoo.co.jp

電話：0763-82-1475

FAX：0763-82-1853

人間作業モデルの研修を終えて

富山協立病院 田嘉 瑞紀

平成28年3月26日、27日に人間作業モデル（以下MOHO）の研修会に参加させて頂きました。人間作業モデルの第一人者である目白大学の山田先生と首都大学の石井先生に来て頂き、MOHOの入門・評価編と治療編として基礎を教えて頂きました。参加者は両日で約50名、半数以上は県外からで、遠くは東京都・群馬県からの参加者がいました。

MOHOは、その人の「大切な作業」を捉える為に、意志、習慣化、遂行能力、環境の4つの視点から患者様を理解するモデルと教えて頂きました。

患者様と会話をする中で、その方の人生のストーリーを聞き、何に興味や価値を持っていたのか、どんな役割があったのか等を知ること、その方の「大切な作業」を捉え介入出来るのがOTであると知りました。

臨床の中で、OTはPTと何が違うのか悩むこと

が多々ありましたが、患者様が最後まで「その人らしく」生活出来るようにアプローチすることがOTの役割と教えて頂きました。

身体機能の維持・向上も大切ですが、患者様がしたい、する必要がある、することを期待されている作業をまず知れるように、患者様とたくさん会話をし、関わっていききたいと思いました。作業は、会話をしている時間・音楽を聴いている時間・活動している時間など、生活の中すべてが作業で繋がっています。その作業を通して関われるOTは素敵な職種だなと思いました。

これからは患者様の「大切な作業」を知る為に、面接の時間を大切に、その人らしい作業を引き出せるようになりたいです。患者様の大切な作業時間を共有しているので、退院後もその人らしい作業が継続出来るように関わって、入院時から退院後を見据えてアプローチ出来るように頑張っていきたいです。

がんのリハビリテーション(身体障害部会研修会)に参加して

厚生連高岡病院 中嶋 一輝

私は普段、脳血管系のリハビリテーションを主として担当していますが、以前からがんのリハビリテーションに対する関心がありました。そのきっかけになったのが、2年目の時にがんを併発された方を担当した事でした。リハビリを開始した当初は自力で起き上がり、車椅子への移乗も出来ていましたが、抗がん剤の治療を開始した後から徐々に体力の低下が見られるようになりました。血圧が安定しないことで治療中に意識が朦朧とした時があれば、倦怠感でリハビリ室に来るのがやっとな日もありました。車椅子から一度立ち上がるだけで疲労を訴え、治療らしい事は殆ど出来ない日が何日も続くようになり自分はこの方にどんなことが出来るのかと悩み続けました。最終的にその方は起き上がるのがやっとなという状態で退院されました。あの時の自分にがんのリハビリについての知識があれば、その方の出来る事を伸ばしたり、したいと思った事をがんリハの視点から提

供出来たのかもしれないと今でも思っています。

当院でもがんに対するリハビリテーションは行われていますが、どのような事を行っているかなどは学ぶ機会がありませんでした。今回の研修に参加して、がんリハには回復期、維持期、緩和期とそれぞれの病期に合わせてアプローチ内容が変わり、作業療法の役割も変わるものと知りました。特に、緩和期においては講師として来られた島崎先生が『患者の喪失感を理解し、1日でもその人の出来る事を伸ばす』と言っており、身体的な部分だけでなく心理的な面でのケアも重要であると学ぶことが出来ました。がんリハをするには、がんの病態だけでなく消化器系や呼吸器系の疾患の知識も必要となる上、緩和期になると状態が悪化していくのを目の当たりする為、やっていくとなると悩むことは多いのではないかと思います。ですが、それでもがんリハについてもっと学びたいと思う事が出来た研修でした。

当院は昭和59年に「富山県高志リハビリテーション病院」の名でスタートしました。しかしながら時代の要請を受け、こどもから高齢者まで様々なライフスタイルに応じた新しい総合リハビリテーション病院として県民に貢献すべく、平成28年1月1日に「富山県リハビリテーション病院・こども支援センター」と組織が再編成され、開設の運びとなりました。

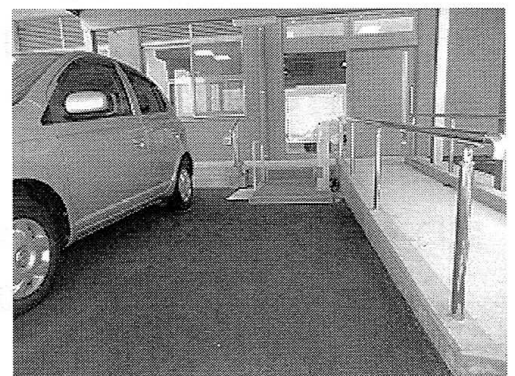
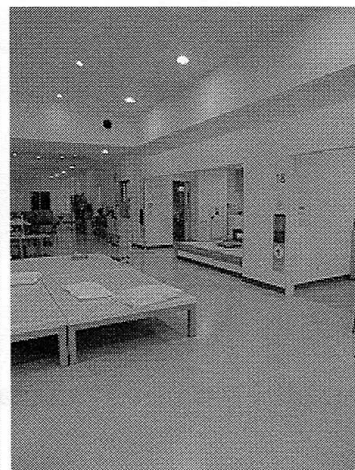
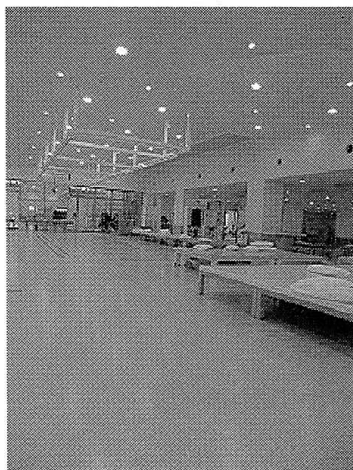
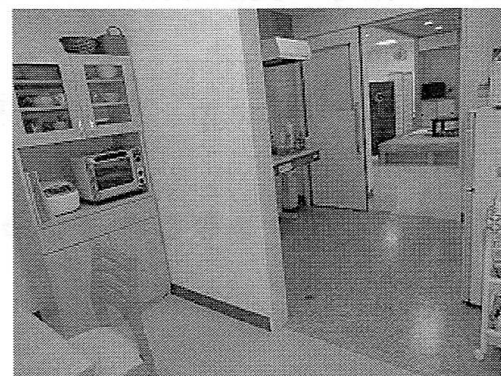
病院内で作業療法を受けている方は、回復期リハビリテーション病棟（100床）と一般病棟（50床）の入棟患者および外来患者です。小児施設と病院が構造的につながったことで、患者さん達は元気にリハビリに通う子供達に出会う機会が増え、良い刺激を受けているように感じます。旧病院には「作業療法室」がありましたが、新病院では「リハビリテーション室」と改められ、PT、OT、STを行う場が一つのスペースに集まりました。例えば、患者さんが歩行練習の為に室内を歩いている時に、調理や洗濯、掃除といった家事動作練習の光景を目にすることが出来るようになりました。リハビリテーション室は病院建物の南東角地に位置し、採光が豊かで明るい雰囲気です。東側の窓からは雄大な立山連峰を一望でき、患者さんのやる気が掻き立てられます。南側の窓からは畑や花壇を作る様子が眺められ、リハビリテーション室から直接外へ出て作業ができます。このような環境は、活動に対するモチベーションを高め、家庭復帰への練習過程をイメージできると考えます。また、新しいリハビリテーション室では設備や場所を共有化しました。そのことで互いの練習を間近で把握でき、効率よい情報交換が進ん



できた実感しています。なお、練習には先端技術を用いた機器（例：北陸地方特有の気候が設定された運転シミュレーター、随意運動介助型電気刺激装置；IVES、安全懸架装置）を取り入れ、高度・専門的で良質な学

習ができるよう工夫を凝らしています。

新年度に入り、「誰もが、その人らしく暮らせる共生社会を目指し、総合的なリハビリテーションの観点から、良質で、安全・安心な医療と福祉を提供する」との理念も定まりました。私が所属する富山県社会福祉総合センター内の各組織や、地域の方々と、一体となり邁進することで、県民に信頼される病院を作っていきたいです。



研修会のご案内

<身体障害部会>

テーマ：HANDS療法

講師：藤原俊之先生（東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学 准教授）

阿部 薫先生（慶応義塾大学病院 認定作業療法士）

日時：平成28年10月23日(日) 9：30～15：00

会場：富山県民会館

※尚、研修会の詳細な内容及び申し込み方法に関しましては、近日中に各病院、施設宛に案内を送付致します。そちらをご確認下さい。

問い合わせ先：富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター

リハビリテーション科 中林 亜沙美

TEL：076-438-2233 E-mail：ot3@toyama-reha.or.jp

<発達部会>

テーマ：「通常学級の「特別」ではない支援教育・ユニバーサルデザインへ

－学級経営・授業づくり・保護者との連携に焦点をあてて－

講師：植草学園短期大学 福祉学科児童障害福祉専攻 主任教授 佐藤 慎二氏

日時：平成28年7月30日(土) 9：00～15：00

会場：富山医療福祉専門学校

参加費：3,000円

内容：ユニバーサルデザインを生かした授業をテーマに、小中学校で支援を要する児童生徒への指導・支援方法について、先生の豊富な実践に基づきお話をさせていただきます。

問い合わせ先：sanda@tif.ac.jp 富山医療福祉専門学校 作業療法士 渡邊 純子

<障害老人部会>

テーマ：「福祉用具について」

講師：金沢福祉用具情報プラザ作業療法士 安田 秀一氏

日時：平成28年9月25日(日) 9：30～12：30

会場：厚生連高岡病院

参加費：2,000円

窓口・申し込み先：金沢医科大学氷見市民病院（担当 菅澤 大介）

FAX：0766-74-1901 e-mail：s-daisu@kanazawa-med.ac.jp

申し込み締切日：8月29日(月)

拝啓 梅雨の候、皆様方にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます
さてこの度生涯教育講座としてActivity部会で研修会を開催いたします
御多忙の事とは存じますが多数の参加をお待ちしております

敬具

記

日 時：平成28年9月4日 日曜日

9時～12時予定（受付開始9時）

場 所： 滑川市民交流プラザ 3階 研修室2

テーマ：「羊毛フェルトの体験研修」

講 師：クラフトハートトーカイ

参加費：2,000円（材料費込）

*この研修会は生涯教育ポイントの対象です。生涯教育手帳を持参して下さい。

*申し込み：必要事項を記入の上8月19日までにお知らせください。



羊毛フェルトとは、ニードルという針を使用して羊毛に差し込んでいくだけの簡単な工程でマスコットやキーホルダー様々な作品を作ることができます。

当日は羊毛フェルトのスターターキットを使って作品作りを体験して頂きます。

簡単に行えるactivityだと思うので対象者は幅広く提供できると思うのでぜひこの機会にご参加ください。

スターターキット、作品は持ち帰りできます。

問い合わせ

三輪病院 作業療法士 狩野 一裕

TEL：(076) 428-1234 FAX：(076) 428-8638

E-mail：activity07170404@yahoo.co.jp

HPにも掲載しておりますのでご確認ください。

平成28年度 第1回理事会

場 所： 富山医療福祉専門学校

日 時：平成28年4月11日(月) 19:00～

参加者：田村・松岡・広野・浅生・吉波・島津
小倉・高林・谷口・田邊・齋藤・森
橋爪・松本

〈報告事項〉

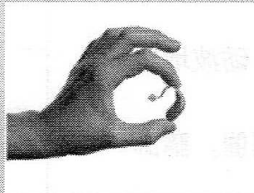
1. OT協会50周年記念事業市民公開講座の予算修正提出－4月15日締切
2. リーダー研修会講師－富山大学に依頼予定、決定後日程、会場の決定
富山大学より、組織論やマネジメントに関して適任者を推薦してもらおう。今週中くらいには決まる予定。
3. 3月27日(日) 地域包括ケア推進に向けたリハ専門職合同研修会－参加者128名
内訳：PT65名、OT52名、ST11名
4. 介護予防事業への派遣依頼対応7月より開始－ガイドブック作成、3月9日市町村担当者に説明、会員への配布。施設長宛てOT派遣協力依頼送付、承諾書締切4月末。
5. 3月28日 平成27年度富山県DPAT研修会
参加者55名(OT16名)
DPAT：大規模災害時等に、被災地域において精神保健医療体制の支援を行う、災害派遣精神医療チーム
富山県は県立中央病院、富山大学付属病院、国立病院機構北陸病院でチームができています
(精神科医、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士)
上記3病院で対応できなくなった場合、混成医療機関チームで対応予定
6. OT協会会員管理システム接続士会の応募－3月29日提出
設置場所：富山医療福祉専門学校事務局
管理責任者：吉波理事
7. 地域医療再生リハビリ従事者業務啓発事業－3月29日事業報告書提出
事業は27年度で終了になるため、この予算で行っている体験会や24時間TV協賛等について、来年度以降予算の割り振り等の検討必要となる
8. 地区別会議－4月20日新川、4月27日砺波、5月11日富山、5月18日高岡
内容、場所、参加連絡先の案内送付
9. OT協会パイロット事業、全国研修会アンケート回答提出
10. 28年度東海北陸OT学会(石川県)の協力依頼－5月理事会時に寺田大会長、麦井実行委員長が挨拶に来られる予定だが6月の総会時の方が

適しているとの意見もあり、4月の理事会後日程調整する

11. 28年度第1回47都道府県委員会－4月23日(土)13時～24日(日)16時
TKP田町カンファレンスルーム 松岡副会長出席
第2回 5月29日(日)社員総会翌日
12. その他委員会、部会報告
MTDLPに関して
 - ・新川地区で事例検討会開催(4月1日)38人参加。2事例発表
次回、かみいち総合病院で行う予定。
今年度、事例検討会を7月と12月に予定しているが、2回では少ないと考えている。
富山地区や南砺地区で5月くらいに開催する計画を立てているが、要望があればファシリテーターを派遣し、施設単位で実施する事も考えている。
 - ・今年度のMTDLP基礎研修会は、富山県作業療法士会員向けに行う方針
 - ・石川県士会の推進委員会主催の北陸3県事例検討会が7月4日開催予定。富山県、福井県からも各県5事例持ちより行う。

〈検討事項〉

1. 総会準備
 - ・27年度事業報告・決算、28年度事業計画・予算－理事・各部長に作成依頼。
 - ・功労表彰対象者28年度対象者は6名予定。対象者の総会出欠確認、文書発送等は吉波氏が行う。
 - ・役員の仕事推薦－推薦届を田村会長に渡す
2. 今後の東海北陸支部の活動について－現在ある都道府県連絡協議会は5月で解散し、新しく47都道府県委員会が発足。東海北陸で行っている学会やリーダー研修会を今後も継続していくのであれば、新しく東海北陸連絡協議会(名称未定)を作って運営するのがよいか。但し、活動費が廃止になるため、新たに出資する必要があるが、管理費等お金の扱いをどうするのか検討が必要。
3. その他
高林氏より、災害対策リハビリに関して－災害対策時の連絡網の流れについて、まず新川、富山、高岡、砺波地区で各地区の理事(もしくは理事会で推薦した適任者)がリーダーとなり、自宅会員も含めて連絡網を作成する方向で。
(新川：吉波氏 富山：松本 高岡：未確定 砺波：未確定)。他県での取り組み(どういう時に派遣され、そこで何をするのか)を知る必要がある。



【営業品目】

義手・義足・補装具等 製作修理

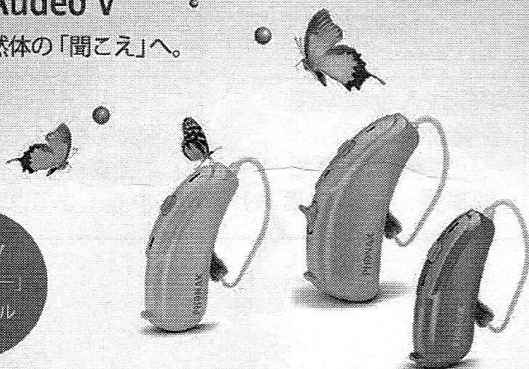
オーダーメイド靴 製作

車椅子・ストーマ・補聴器

福祉用具貸与販売

Phonak Audéo V

また一步、自然体の「聞こえ」へ。



新チップ
「ベンチャー」
搭載モデル

(株)富山県義肢製作所 富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16

TEL (076) 425-4279

FAX (076) 425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp

介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

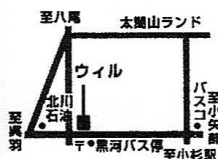
車椅子
→ 480円より
ベッド
→ 700円より

リースサカ



株式会社 **ウイル**

TEL (0766) **56-7099**
FAX 56-3395



手芸・毛糸の店

- | | |
|---------|-----------|
| ○手芸糸 | ハマナカ |
| ○刺し子 | オリムパス、ナスカ |
| ○ビーズ手芸 | トーホー、ミユキ |
| ○マクラメ糸 | ダルマ、川端 |
| ○ちりめん手芸 | 東芸 |
| ○その他 | S.M、M.B他 |
- 各手芸材料取り扱っています。



ポタン・手芸・毛糸

スギマサ

〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9

TEL (076) 421-3444

FAX (076) 421-4334

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成28年5月9日(月) 19:00～

参加者：田村・作田・広野・浅生・谷口・橋爪
吉波・松本・島津・丸本・齋藤・小倉
森・高林・田邊・松岡

以下のことについて検討した。

〈報告事項〉

1. 地区別会議－4月20日新川地区・27日砺波地区にて開催
2. リーダー研修会－12月3日(土)、4日(日)開催。講師は富山大学船橋伸一教授
3. 介護予防事業へのOT派遣協力承諾書－現在の協力可能施設37施設
4. 地域医療再生リハビリ従事者業務啓発事業－27年度事業実施分補助金30万円が28年度に入金済
5. 28年度東海北陸OT学会(石川県)の協力依頼－6月5日総会時に寺田大会長・麦井実行委員長挨拶予定
6. 28年度第1回47都道府県委員会4月23、24日松岡氏出席－ワーキンググループにて組織強化、地域作業療法支援、認知症について討議
7. 富山県社会福祉推進関係者交歓の集い－4月28日田村会長出席
8. 県在宅医療研修会プログラム案－新規に排尿排泄障害の対応について組み入れる予定。第1回は6月19日(日)開催。7月、9月、11月、12月開催。訪問リハ研修会は救急救命について8月に開催。
9. 県学会進捗状況－29年3月18日(土)富山国際会議場にて開催。午前の特別講演は、OT協会50周年記念事業の市民公開講座と兼ねる。
10. 生活行為向上マネジメント委員会－5月22日(日)研修会は中止
11. 訪問リハビリテーション振興財団地域リーダー会議－5月20、21日東京 鷲尾氏(南砺市訪問看護ステーション)参加。

〈検討事項〉

1. 総会準備
27年度事業報告・決算、28年度事業計画・予算案について、会費値上げ等各議案について
2. 地域ケア会議人材育成研修会派遣－6月25日東京。派遣の人選は橋爪理事に一任
3. 日本作業療法士協会50周年記念祝賀会－9月25日東京 ハイアットリージェンシーホテル 田村会長、松岡副会長参加予定
4. 2年間会費未納者4名への対応－田村会長より連絡
5. 熊本地震災害義援金－熊本県士会に10万円を送る。

会 員 名 (代表者)	住 所
温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 T E L 076-425-1166
(株)ウイル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 T E L 0766-56-7099
富山医療福祉専門学校 (学校長 辻 政彦)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 T E L 076-476-0001
(有)スギマサ洋装店 (代表取締役 杉政正規)	〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9 T E L 076-421-3444
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長 加藤 真一)	924-8511 石川県白山市笠間町1200 T E L 076-276-4400(代)

編集後記

私事ですが、富山に引越してきてようやく1年が経ちました。

アルペンルートに行ったり、地元のお寿司食べたりして富山を満喫しています。

働く場所は変わっても、OTという素晴らしい仕事を変わず続けることができるのは専門職の強みだなと思います。

生活行為向上マネジメントを通じて、今まで見えなかった患者さんの本来の一面を知ることができるようになりました。

自己のスキルも向上し、患者さんらしさを引き出すリハビリを行っていきたいと思います。

(S.W)

